

# オスプレイ8機追加

## 普天間へ移動強行

在沖米海兵隊は12日午前、空軍嘉手納基地所属のHH60救難ヘリの宜野座墜落事故を受けて、一時中止していた垂直離着陸輸送機MV22オスプレイの普天間飛行場への追加配備を再開した。山口県の岩国基地に一時駐機中だった残り10機のうち、8機が午前8時ごろに同基地を相次いで離陸し、最初の2機が同10時15分ごろ宜野湾市の普天間飛行場に到着、同23分ごろまでに8機全てが着陸した。



追加配備を再開し普天間飛行場に到着する垂直離着陸輸送機MV22オスプレイ＝12日午前10時22分ごろ、宜野湾市の沖縄国際大学屋上から撮影

米海兵隊は12日午前7時ごろ「日米間の綿密な調整によって配備再開が決まった。運用体制が整ったオスプレイと乗組員は本日、普天間飛行場に到着する予定だ」と追加配備の再開を発表した。県や宜野湾市など関係市町村には沖縄防衛局が伝えた。海兵隊は同日に移動する機数は明らかにしていないが、10日までに全ての機体の試験飛行を終えており、12日中に全機が移動する公算が高い。

米軍は追加配備のオスプレイ12機のうち、3日に2機を普天間に移動。残る10機も5日以降に飛来するとしていたが、5日の米軍ヘリ墜落事故を受け、日本側は米側に追加配備の一時見合わせを求め、米軍が日程を延期していた。

追加配備されるオスプレイ12機は、米本土から7月30日に岩国基地に搬入され、順次普天間に移動するとしていた。

オスプレイは老朽化したCH46中型輸送ヘリの後継で、海兵隊は飛行速度や航続距離が大幅に増すとされているが、開発段階から墜落事故が相次ぎ、安全性が懸念されている。